

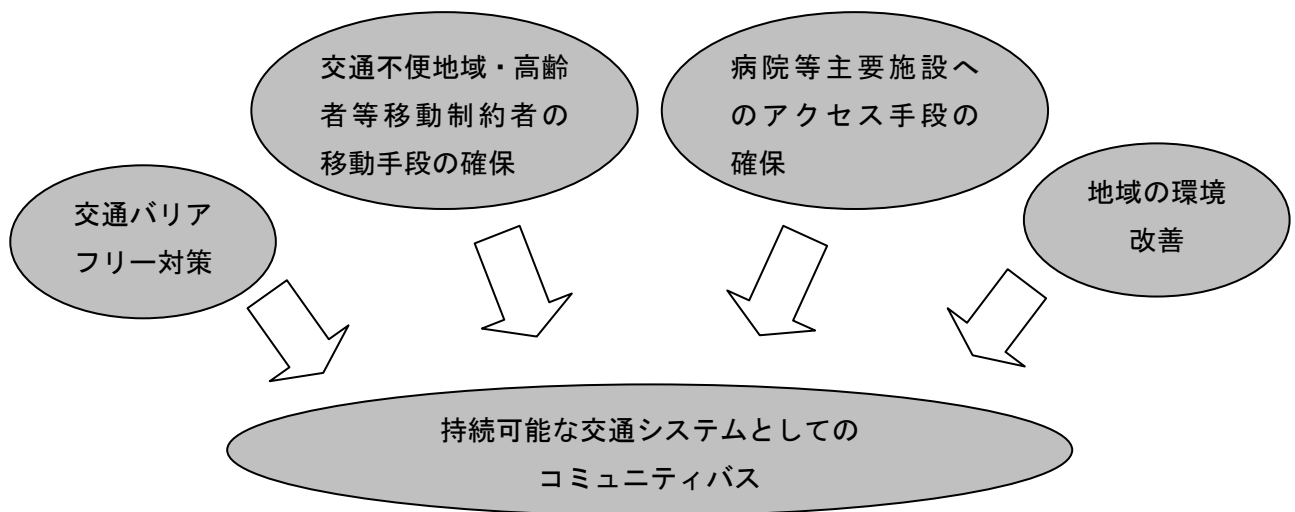
吹田市コミュニティバス導入に関する検討 (平成 17 年 11 月現在)

■ 導入検討の背景及び目的

吹田市における交通サービスの課題には、公共交通不便地域（駅勢圏 700m、バス停圏 300m 以外の地域で約 551 ヘクタール）に居住する約 5 万人もの市民の移動手段が困難であること、医療施設、福祉施設等の主要施設が駅から離れた丘陵地に数多く点在していることが挙げられる。吹田市市政モニターアンケート（平成 14 年度）でも、吹田市内のバス路線網について「改善すべき」との回答が過半数を超えており、住民の希望するサービスに配慮した交通基盤の整備が必要とされている。さらに今後、高齢化の急速な進展、障害者の社会参加の増大に伴い、高齢者や障害者が気軽に利用できる移動手段を確保することが大きな課題になる。

そこで、吹田市における持続可能な交通システム形成の一環としてコミュニティバスを位置づけ、移動に困難を感じている多くの市民のニーズに応えるため、便利で誰もが気軽に利用できるコミュニティバスの導入を検討する。自家用車利用を減少させることによる交通安全対策及び環境改善、駅前放置自転車対策への効果も期待できる。

■ 吹田市におけるコミュニティバスの基本コンセプト(案)



■ 試験運行候補地域の選定(平成 16 年度)

コミュニティ区（小学校区）毎に地域の交通不便状況を明らかにするため、以下の項目について整理し、順位付けを行った。

- ・ 人口構成（高齢・年少人口、高齢者人口密度）
- ・ 公共交通不便地域（不便地域面積、不便地域人口）
- ・ バス運行状況（バス停数、面積あたりのバス停密度、運行本数、人口当たりの運行本数）
- ・ 鉄道結節点（最寄り駅、鉄道利用者数、最寄り駅までの距離）
- ・ 最寄り駅までの標高差（小学校区中心の小学校と最寄り駅の標高差）
- ・ 主要施設の立地状況

総合評価の結果、交通サービスを向上させる上で優先度の高い以下の 3 地区を試験運行候補地域として選定した。（別紙 コミュニティバス導入候補地域図参照）

- ・ 公共交通不便地域：千里丘地区、千里山地区
- ・ 公共施設集積地域：吹田・豊津地区

■ 試験運行計画素案(平成 17 年 11 月現在)

<試験運行実施予定地区・予定時期>

市民アンケート調査結果で利用意向の高い地区から順に、3地区を3期に分けて実施予定。試験運行中に本格導入の検討を行う。

- ・ 千里丘地区 平成 18 年 10 月～平成 20 年 3 月（18 ヶ月）
- ・ 千里山地区 平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月（12 ヶ月）
- ・ 吹田・豊津地区 平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月（12 ヶ月）

<試験運行ルート選定の基本方針>

- ・ 交通不便地域を緩和するとともに地域間における移動手段の確保・円滑化を図り、市民生活を活性化する。
- ・ 交通結節点である駅、公共施設、主要な病院、商業施設への足を確保する。
- ・ 導入検討委員会、住民参加のワークショップ等の意見、アンケート調査結果を反映させる。
- ・ 既存バス路線との競合は原則として避ける。
- ・ 安全確保のため、ルートは原則幅員 5m 程度以上の連続した道路とする。
- ・ 運行時間（乗車時間）は 1 ルート概ね 30～50 分以内とする。

<試験運行の運行条件案>

※ () 内はアンケート調査の結果。

- ・ 1 週の運行時間：30～50 分程度。（許容できる片道乗車時間は平均 27 分）
- ・ 運行間隔：20～30 分間隔。（許容できる運行間隔は平均 23 分）
- ・ 利用料金：100～200 円/回程度。（許容できる片道運賃は平均 171 円）
- ・ 運行時間帯：午前 7 時頃～午後 8 時頃の間で検討。
(利用意向の多い時間帯は午前 8～12 時、午後 2～5 時)
- ・ バス停設置場所：駅、公共施設、病院、商業施設などの周辺、
多くの住民が利用しやすい場所。
- ・ 運行形態：事業主体は吹田市、運行主体は民間事業者。
事業者は財政補填。詳細は今後検討。
- ・ 車両の大きさ：幅員 5m 程度の道路を安全に走行できる大きさ。
- ・ その他：料金体系、運行時間帯、バス停位置等は試験運行中に適時見直し。